

## 中之島の火山活動解説資料（令和8年6月）

福岡管区气象台  
地域火山監視・警報センター  
鹿児島地方气象台

火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・噴煙など表面現象の状況（図1、図2-①③）

御岳<sup>おたけ</sup>火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上50m（5月：300m）まで上がりました。御岳火口内斜面では、引き続き複数箇所<sup>おたけ</sup>で白色の噴煙を確認しました。また、火口底には水溜まりを確認しました。

#### ・地震や微動の発生状況（図2-⑤、図3）

御岳火口付近の火山性地震の月回数は92回（5月：26回）で、5月下旬から6月上旬にかけて一時的に増加しました。長期的には、御岳火口付近が震源と考えられる地震が時々発生しています。御岳火口付近を除く、御岳周辺の火山性地震の月回数は、3回（5月：2回）でした。

広域地震観測網において、島内に震源が求まった火山性地震はありませんでした。  
火山性微動は観測されていません。

#### ・地殻変動の状況（図4）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

#### ・火山ガスの状況（図2-②④）

東京大学大学院理学研究科、京都大学防災研究所、十島村及び気象庁が実施した観測では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、今期間、観測値を得られませんでした（5月：観測値なし）。

---

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

次回の火山活動解説資料（令和8年7月分）は令和8年8月10日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、東京大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、十島村及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。



図 1-1 中之島 御岳の状況（6月6日、寄木監視カメラ）

御岳火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上 50m（5月：300m）まで上がりました。



図 1-2 中之島 御岳火口内の状況（左：6月11日、右：5月24日 御岳山頂監視カメラ）

御岳火口内斜面では、引き続き複数箇所では白色の噴煙を確認しました。また、火口底には水溜まりを確認しました。

御岳山頂監視カメラは、2026年3月26日より運用開始しています。

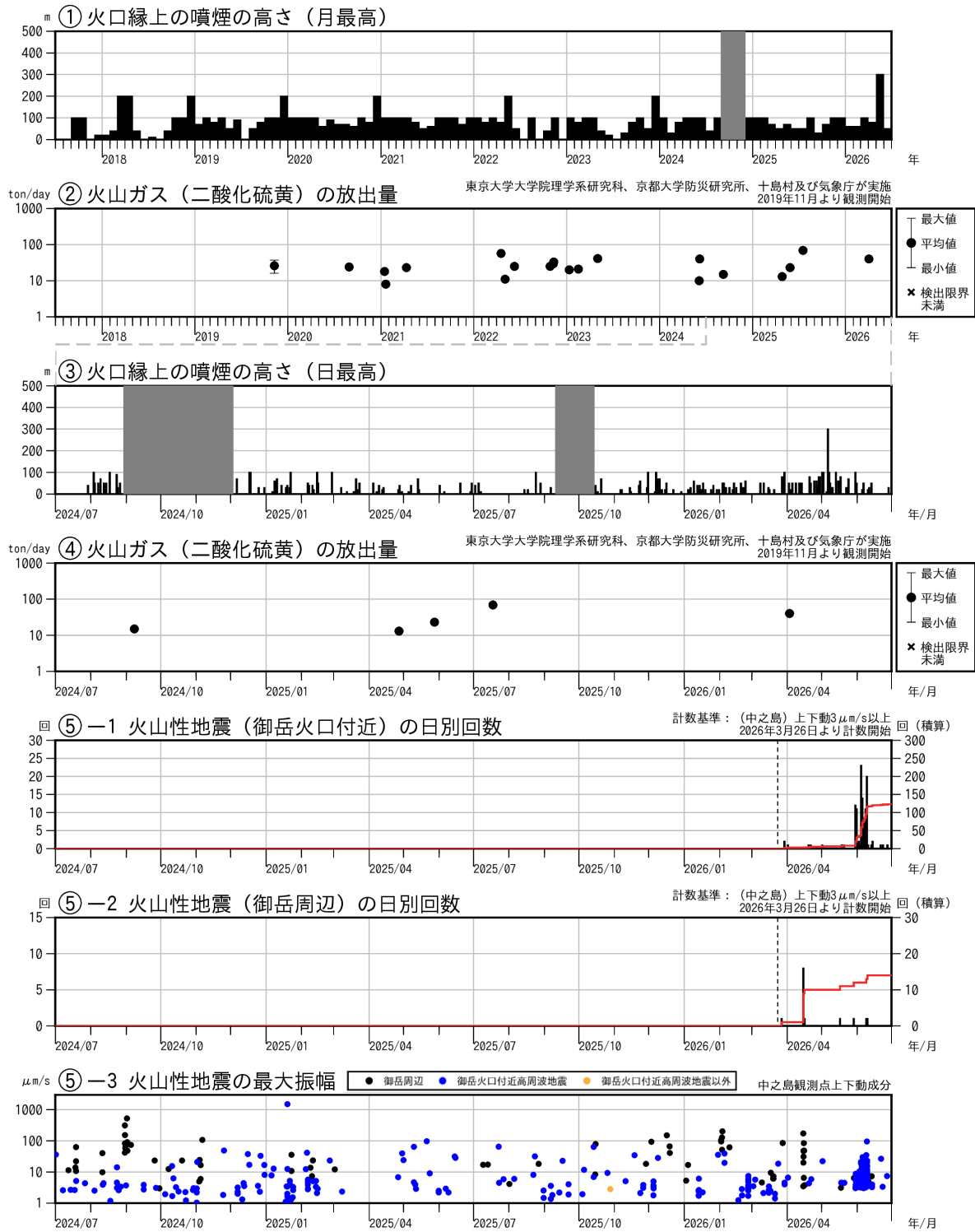


図2 中之島 火山活動経過図（2017年7月～2026年6月）

< 6月の状況 >

- ・ 御岳火口では白色の噴煙が最高で火口縁上50m（5月：300m）まで上がりました。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、今期間、観測値を得られませんでした（5月：観測値なし）。
- ・ 御岳火口付近の火山性地震の月回数は92回（5月：26回）で、5月下旬から6月上旬にかけて一時的に増加しました。御岳火口付近を除く、御岳周辺の火山性地震の月回数は、3回（5月：2回）でした。

灰色部分は監視カメラの障害による欠測を示しています。

2026年3月26日から監視カメラによる噴煙の常時監視を開始しました。2026年3月25日までの噴煙の状況は、毎日08時30分及び14時30分の定時に監視カメラで観測しています。

御岳火口付近及び御岳周辺の火山性地震の回数について、2026年3月26日から「中之島観測点（計測基準：上下動3.0μm/s）」で計測しています。

赤線は火山性地震の回数の積算（右軸）を示します。

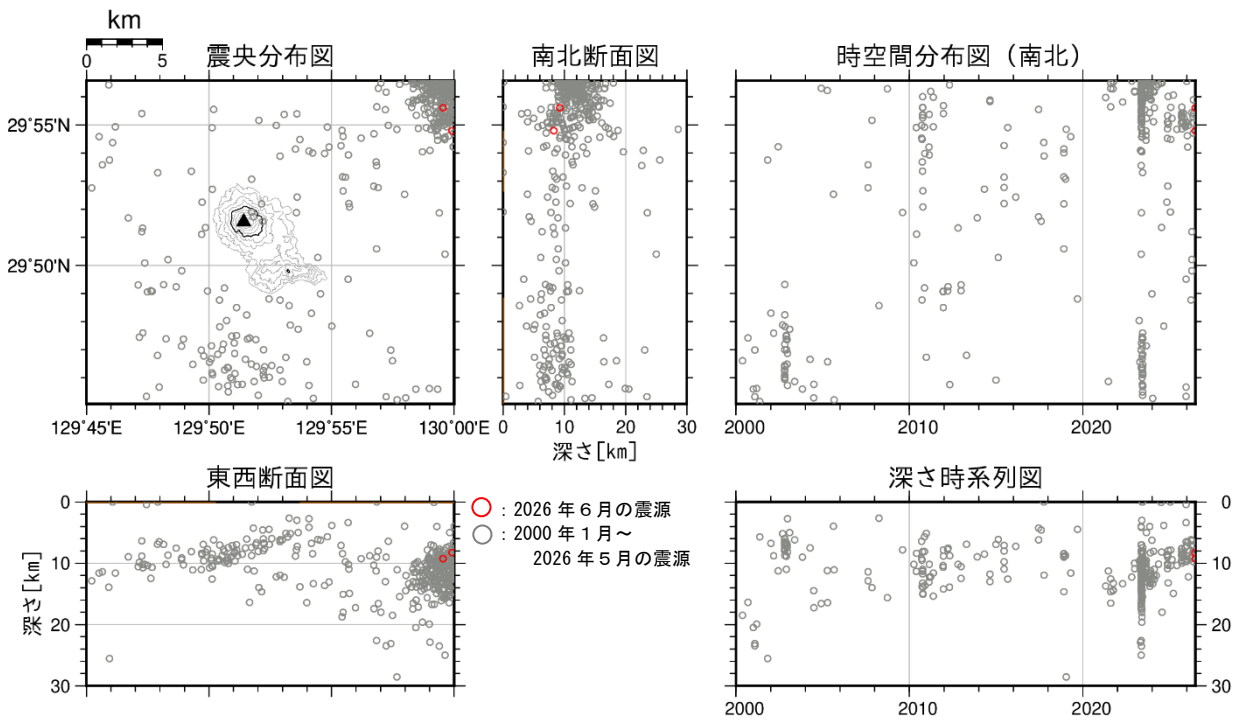


図3 中之島 中之島周辺の震源分布図（2000年1月～2026年6月）

< 6月の状況 >

広域地震観測網において、島内に震源が求まった火山性地震はありませんでした。

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。なお、2020年9月以降については、地震観測点の標高を考慮する等、震源決定の手法を変更しております。

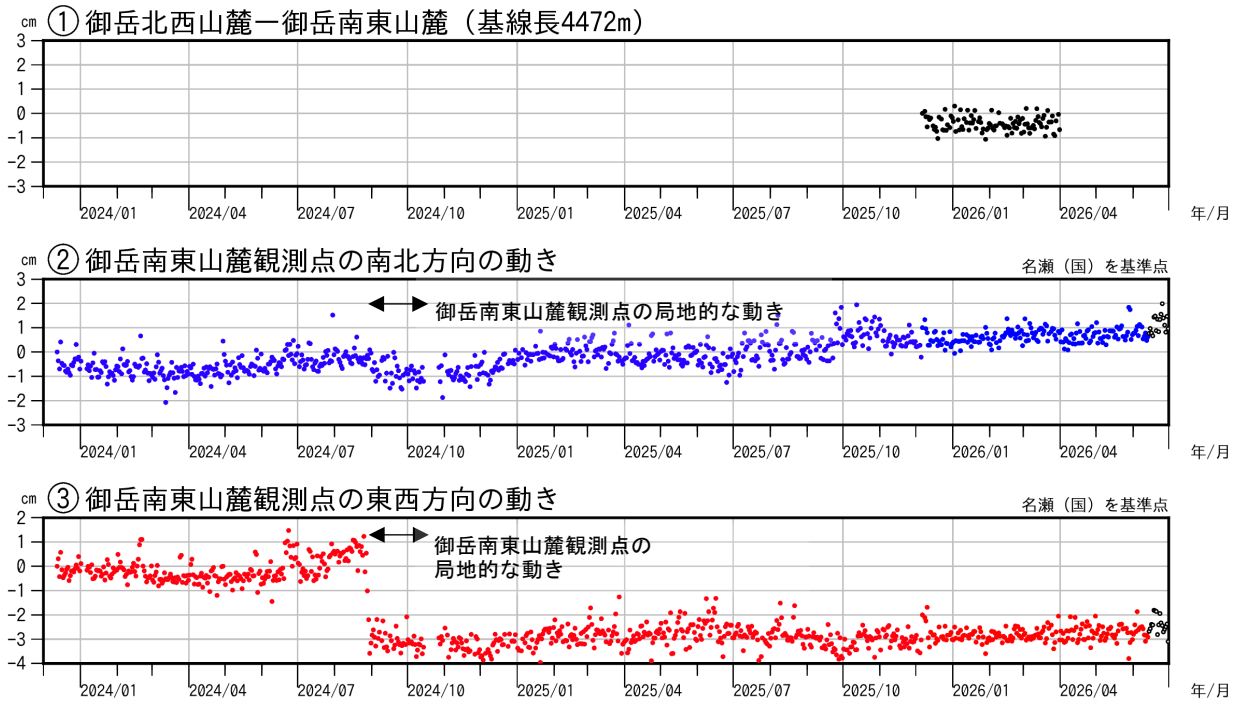


図4 中之島 GNSS連続観測（2023年12月～2026年6月）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

基線は図5の①に対応しています。

基線は島外の観測点（名瀬（国））を基準としています。

直近の白丸は速報的な解析結果であり、再解析により修正されることがあります。

基線の空白部分は欠測を示しています。

2025年12月6日の観測点更新（御岳南東山麓観測点）に伴うステップを補正しています。

（国）：国土地理院

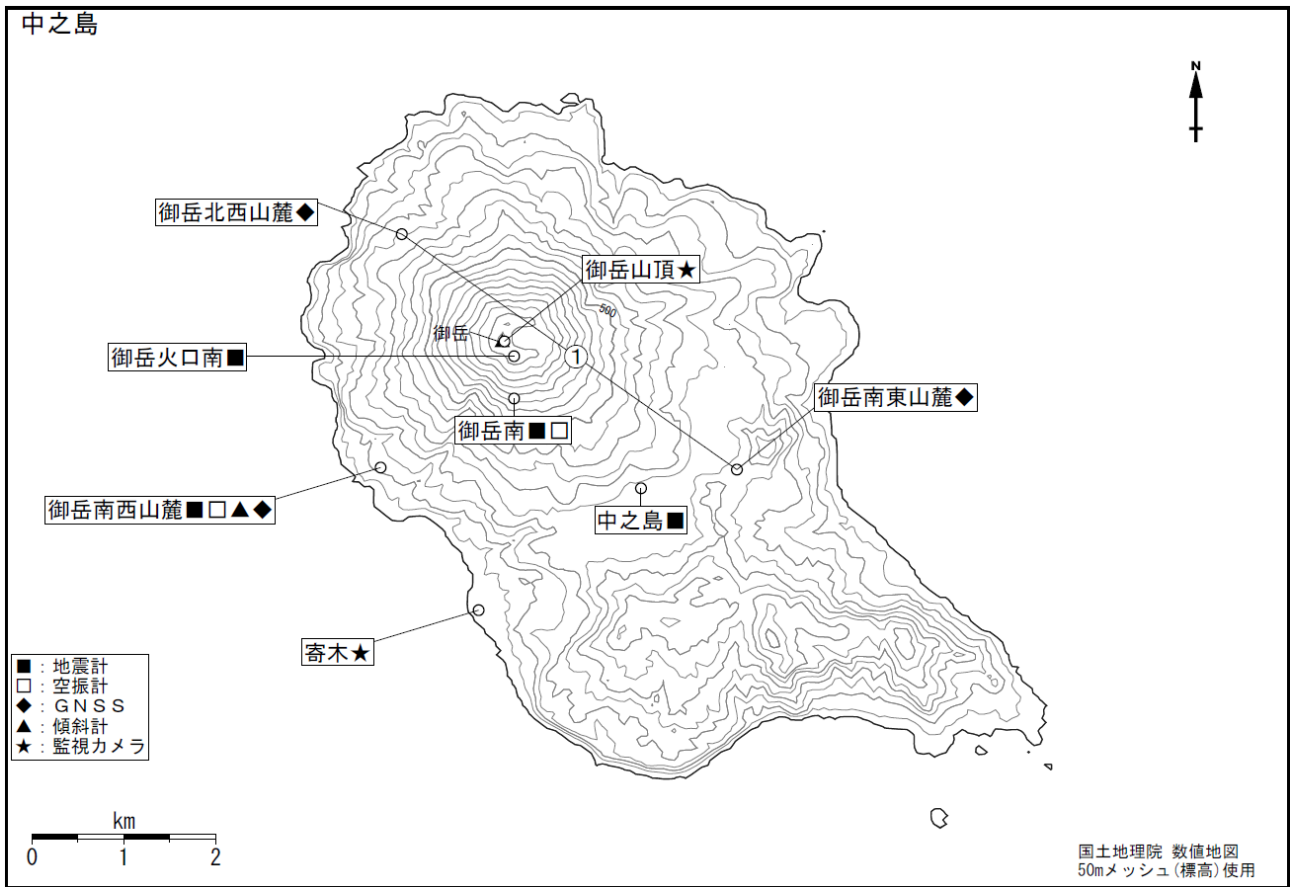


図5 中之島 観測点配置図とGNSS連続観測の基線番号